

ぐんま経済新聞

発行所 群馬経済新聞社
本社 (郵便番号371-0855)
前橋市問屋町1-1-1 NF2ビル
電話代表(027)252-7700
FAX(027)251-8218

郵便振替口座00390-5879
©群馬経済新聞社 2004

MITSUBA

夢の翼

「社会と環境に調和した技術」
「安心と安全で新しい世界を目指します。」



心ひろがる技術
株式会社 ミツバ
群馬県桐生市広沢町1-2681
〒376-8555
☎(0277)52-0111(代)

「空気の安全」は大丈夫?

住宅地の回りで農薬空散 懸念される子どもへの影響

今年5月、マシンノミシ防除対策の農薬散布で、周辺住民の健康被害の懸念が、県や前橋市が住宅地の農薬散布を中止する問題が発生した。県林政課は25日に関係者を集めて意見を聴取、来年度の防除計画に反映させる方針だ。一方、県内の広い地域で行われている水稲や大豆への農薬の空中散布もその危険性を子どもたちへの悪影響が懸念されている。ただいま、光化学スモッグ被害が全国一のレベルで発生する群馬県。「食の安全」の取り組みについては先進県を模範に、「空気の安全」についても対策が急がれる。

高濃度で散布

農薬の空中散布は水稲や大豆、小麦の病害虫を防ぐ目的で7～8月を中心に実施され、現在は無



玉村町で配られた防除対策地図。黒色部分が散布場所が住宅地を覆っている。

人のマシンノミシで散布場所を上手にしながら、霧状の農薬を散布する方式が取られている。農薬系団体に「空中散布を実施するかどうかは、農業団体の事業

者で組織する「県産農用無人ヘリコプター適正利用推進協議会」会員それぞれの判断に委ねる。同協議会が農薬系団体に提出した年間防除計画によると、04年度は17市町村の延べ2007ヘクタールで実施の予定。00年度の3500ヘクタールに比べると減っているものの、03年度は2500ヘクタールに若干増加した。市町村別では玉村町が518ヘクタール、太田市が600ヘクタール、伊勢崎市が700ヘクタールをそれぞれ実施面積の上位を占めている。

使用される農薬は有機リン系の「メチダチオン」

有機リンの毒性

玉村町のある住民は子どもが落ち着かなく動き回り、発熱するなどの症状を訴えている。自分も頭痛がひどい。空中散布が始まってからの症状と類似した。マシンノミシ農薬で不整脈の出た前橋市の住民は、「子どもが知ることには高濃度の農薬を浴びた時のショック症状が一番怖い」と不安を語る。

最近の研究によると、有機リンは多量に吸いこむと急性中毒だけでなく、微量でも繰り返し吸いこむことで頭痛や倦怠感、めまいなどの症状が現れる。また、視力の低下、不眠、記憶障害などの慢性中毒症状を引き起こすことがわかってきた。

回避は困難

防除実施計画は県から公私立学校へ、県医師会を通じて地域医療機関にそれぞれ周知されるほか、実施業者が対象地域の住民に事前告知を促している。また、末端の周知状況は県でも十分に把握している。

「体内に取り込まれる化学物質の8割は空気中から。しかも食べ物も肝臓で解毒されるが、ガス化した農薬は肺から血管に直接入るので怖い」と青山医師は警告している。

代替手段は

前橋市農協は住民の要請などにより02年度から水稲、03年度から大豆の航空防除を取り止めた。大豆の害虫はフェロモンによる誘導、水稲は田植え前の苗に効力期間の長い農薬を散布する静態方式を導入、1今のところ深刻な被害は発生していないと話す。